

「かわはく」での活動 —博物館と学校の連携について—

青木 勝美

埼玉県教育振興基本計画「生きる力と絆の埼玉教育プラン」が実施され、今年で2年目になります。施策の柱となる3つの観点の中で、特に「一人一人の学びと夢を応援する」「県民の教育力を結集する」において、博物館の果たす役割は大きいと思われています。そこで、埼玉県立川の博物館に駐在する環境担当も学校との連携に力を入れています。今回、その一部を紹介します。

体験学習の支援

川の博物館は、荒川扇状地の扇頂にあたる寄居町にあり、日本最大級の木製水車でも有名です。



かわせみ川原での水生生物調査

すぐ前の「かわせみ川原」には、たくさんの水生生物が棲んでいます。体験学習では、そこで採取した生物や水をその場で観察、検査し、さらに講座室に運び、詳しく調査します。子どもたちの中には、はじめて水生生物に触れたり、川に入った子もいて、目を輝かせてくれます。また、敷地内の荒川大模型173を使って、荒川の地形や川のはたらきなどの学習をしたり、館内のさまざまな展示物から「水と人々の暮らしとの関わり」を体感します。これらの活動をとおして、自然や環境に対する関心を高めるよう支援をしています。

出張授業での支援

支援要請のあった学校には出張授業に出かけます。学校や近くの川など、身近な環境を調査するので、子どもたちも積極的に参加します。また、結果についての関心も高く、意外な事実に驚きを



学校の理科室で行った川の水質調査

かくせない様子も見られます。実際の感想として、「〇〇川の水はきたないと思っていたけど、思ったよりきたなくなかったのでよかった(小4)。「水道水にしょうゆを1てきたらただけで、コイやフナがすみにくくなっちゃうんだなと思いました(小5)。」これらの体験をとおして、自分たちの身近な環境を大切にする気持ちが深まり、環境改善などの実践につながっていくことを願っています。



学校の近くの川での水生生物調査

平成22年度は12月までに、出張授業で5校の小・中学校を訪問したほか、30校以上の小・中学校に伺い、出張授業や博物館の利用などについて相談させていただきました。これからも学校のニーズに合わせた活動をし、「学校と共に学ぶ博物館」をめざしていきますのでよろしくお願いいたします。

(あおき かつみ・担当課長)